

私立高校について

地方の行政機関が運営する公立高校に対して、私立高校は個人や各種団体が設立・運営しており、「建学の精神」や「宗教」などにより、各校独自の教育課程が設定されています。また、付属中学校のある高校は内部進学生とともに学ぶことになります。大学付属校は、系列の大学・短期大学への優先入学ができます（優先条件は学校により異なり、校内テストで志望学部が制限されることもあります）。施設・設備は充実しており、校外学習も海外に行く学校が多くあります。その分、学費や諸費用が高額になっています。

受験に関しては、公立と違い、通学区域に制約がありません。また、受験日が重ならない限り、複数の学校を受験することができます。同一高校の入試でも、受験日を2日間設定している高校もあります。近年、インターネット出願の学校が多くなっており、出願の期日を確認し、自分で手続きを進めていかなくてはなりません。当然、期日を過ぎると手続きができなくなります。

〈受験の制度〉

私立高校の受験は、第一希望(単願)での受験と、第二希望以下(併願)での受験とに分かれています。単願の場合、「合格したら必ずその学校に入学する」という約束のもと受験するので、併願での受験よりも有利になります。また、推薦制度(単願推薦・併願推薦・スポーツ推薦)を使つての受験もありますので、学力や学校生活などで一定の基準を満たしていると、入学者選抜においてかなり優遇されます。推薦の条件には、例として以下のようなものがあります。

- a. 一定の学力基準に達している生徒で、人物優秀で学校長が推薦できる者。
※学力の基準は3学年 1, 2学期の内申点(評定)を用いることが多い。
- b. 生活態度が良好な生徒
(時間を守る、あいさつ、清掃への意欲、服装、身だしなみ、言葉づかいなど、基本的な生活習慣が身につけている)
- c. 欠席、遅刻、早退が少なく、健康であること (理由が明白な入院等は考慮される)。
- d. 高校生活に対して明確な目標を持ち、積極的な生活を送ることができる生徒。
- e. 3年間、目的を持った充実した高校生活を続けることができる生徒。

～学力基準の例～

- ア. 1学期または2学期の9教科5段階評定の合計が35以上
- イ. 国語・数学・英語の評定がそれぞれ4以上であること
- ウ. 9教科の評定に1や2がないこと、以上のア～ウをすべて満たしている生徒。

これはあくまでも一例です。自分がこの条件にどれだけ当てはまるか、確認してみましょう

※ 「『高校入試過去問題集』 申込に関するお知らせ」を配布しました。

購入希望者は6月30日までに申し込んでください。